

2021年度(令和3年度)学校評価自己評価表

東朋中学校区	校番 62	福山市立大谷台小学校
最終更新日		2022年(令和4年)2月10日

I 福山市

ミッション ビジョン	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。
---------------	---

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容 ○学校関係者評価会議とあわせて、3回の授業参観を行った。実際に児童生徒の様子を見ることができてよかった。 ○各校が進めている「子ども主体の学び」について、保護者や地域に、積極的に情報発信をしてほしい。 ○評価指標のアンケート項目について、達成状況がよりわかりやすい内容にするなど、工夫・改善してほしい。	児童生徒の現状 ○自ら課題に取り組もうとする姿が多くみられるようになってきた。一方で、自分の思いや考えを多様に表現することには課題が残った。 ○昨年度は、感染拡大防止のため、児童生徒が対面して交流する機会をもつことができなかった。 ○小中学校ともに、種目は異なるが、体力テストの記録が下がった児童生徒が多かった。	育成する力 21世紀型“スキル&倫理観” ○課題発見解決能力 ○コミュニケーション能力(自己効力感) ○チャレンジ精神 ○思いやりと感謝の心(地域貢献)	めざす子ども像 (義務教育終了時の姿) ○よりよく課題を解決し、自分の生き方に生かす ○互いを認め、よりよい人間関係を形成する ○自分に必要な挑戦を選択してやってみる ○人や社会の役に立てたことへの喜びや達成感を感じる	中学校区として統一した取組等 ○子ども主体の学びづくり(授業、児童生徒会活動、ボランティア活動など) ○体力や健康についての自己課題の解決 ○OSDGs「住み続けられるまちづくりを」につながる生活科・総合的な学習の時間等の充実
--	---	---	--	--

III 自校

ミッション ○地域・社会に貢献する人間を育成する。〔小さな学校の確かな一歩〕 やる気 元気 やさしい心根	目標を持ち、粘り強く共に取り組む子 自分の体は自分でつくり、自分で守る子 人の気持ちを考え、人のために動ける子
--	---

学校教育目標 人間性豊かに 生きぬく 児童の育成

現状 <児童生徒> ○学校が楽しいと答える児童は 79.8%であった。児童の納得のいく指導や丁寧な保護者連携に努める。 ○「人や地域のために役立とうとする行動を3つ以上している」と言える児童 85.1%であった。児童だけでなく、家庭にも校内での貢献活動について周知を図る。 ○新体力テストでの合格判定 ABは73%であった。モーニングタイムや家庭学習の体力づくりで、記録が低い種目に関わる運動を取り入れる。 ○生活リズムが整っている児童は 70%であった。『メディアの時間』を守ることが難しいため、1日のスケジュールを立てさせ、メディアの使用時間帯を考えさせる。 <授業> ○「考えることが面白い」と答える児童は 77.2%、「自分の考えが認められている」と答える児童は 81.6%であった。児童が授業の中でできたこと、できるようになったことをふり返らせ評価する。また、児童の見方、考え方の変容を見取り価値付ける。 ○学校全体での研究授業を年間7回行った。授業づくりについて相談できる校内体制を維持するとともに、定期的に「主体的に学ぶ児童の姿」について交流し、職員間の意識を高める。

育成する力 21世紀型“スキル&倫理観”	課題発見解決能力	コミュニケーション能力	チャレンジ精神 (自己効力感)	思いやりと感謝の心 (地域貢献)	
めざす子ども像	5・6年	解決に向けて、主体的に選択・判断する	人の考えや気持ちを受け入れ、自分の意見や気持ちを表現する	結果の理由を次に生かしてやってみる	人や地域のためになることを考え、行動する
	3・4年	解決への方法を考え、見通しを立てる	人の気持ちを考え、自分の意見を理由をつけて伝える	得意なこと苦手なことやってみる	人や地域のためになることを考える
	1・2年	もんだいにきづき、かだいをたてる	じぶんのかんがえ やきもちをいう	もくひょうをもつてやってみる	ひとやちいきにかんしゃのきもちをもつ

研究	テーマ	自身の考えを豊かに表現できる児童の育成
	主題・内容等	～協働的な学びを通して～
めざす授業の姿	<ul style="list-style-type: none"> 学ぶ意欲や知的好奇心が発揮できる授業 対話により学びを深める授業 児童が安心して多種多様な考えを出し合える授業 	

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立大谷台小学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)					
							□指標に係る 取組状況	力 付 せ た 評 価	達 成 評 価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期中期経営目標の達成状 況	力 付 せ た 評 価	達 成 評 価	総合 評価	改善方策
4	主体的に学び 授業づくりを進め、確かな 学力をつける	★	継続	・児童が安心して 、多種多様な考 えを発現できる 授業づくり	①児童が安心して学習で きる環境づくり ②児童がのびのびと考 えを発現できる手立ての 工夫	①授業に集中して取り組むこ とができる児童 児童アンケート80%以上 ②自分の考えを表すことがで きている児童 児童アンケート80%以上	①アンケート結果 84% ・学習規律を徹底した ・授業時間内の予定を示し、見通し をもたせた ②アンケート結果 89% ・単元のゴールを示し、様々な表現 方法を提示した ・書き方や、話し方の型を示した	3	3	①・児童が主体的に学ぼう とする導入の工夫 ・児童の考えを認め、全 体に広げる ②・様々な表現方法を教員 で共有し、実践する	①アンケート結果 92.9% ・導入の工夫を行った ・児童のつぶやきを拾い広 げることを意識している ②アンケート結果 93.8% ・表現方法の共有が行えて いない	3	4	3	①・全員を参加者にすることを意 識し、発言の仕方にこだわら ず、広げていく ②・学校全体で統一して、思考ツ ールを実践してみる
				・基礎基本の定着	①帯タイムの適切な活用 ②授業内で適用題、また は振り返りを行う	①国・算・理の学期末 テスト(知・技) 80点以上の児童 80%以上 ②授業内で適用題、または振り返 りを行っている 教員アンケート80%以上	①学期末テスト国 84%、 算 78%、理 79% ・児童の課題に応じたプリントや ドリル学習を行った ②アンケート結果 100% ・どの学級でも授業内に適用題、 振り返りを行うことができた	3	2	①・児童が主体的に学習で きるよう、タブレット の利用方法を工夫する ②・授業の時間配分を考 え、適用題、振り返り を行う(継続)	①学期末テスト国 95.2% 算 84.9%、理 71.6% 実態に応じた基礎の定着 を図る繰り返し学習を行 った ②アンケート結果 100% ・授業内に適用題、振り返 りを行うことができた	3	3	3	①・問題に印をつけたり、図を描 いたりするなど課題を解くた めの情報の整理を行わせる ②・授業の時間配分を考え、適用 題、振り返りを行う(継続)
3	自己肯定感・ 自己有用感を 向上させる	★	継続	・人や地域のため に役立つとする 児童	①貢献の意味を考える指 導 ②児童会の活用	○人や地域のために役立つ 行動ができていると答 える児童 児童アンケート85%以上	人や地域のために役立つ行動が できていると答える児童 86% ①・児童の貢献の様子を掲示をし た ②・職員が挨拶カードを配布し、 児童に意欲をもたせた	3	3	①・貢献の意味をアンケ ートや掲示で知らせる ②・挨拶カードの配布の仕 方を工夫する	人や地域のために役立つ行動が できていると答える児童 85.7% ①・児童の貢献の様子を掲示をし た ②・職員が挨拶カードを配布し、 児童に意欲をもたせた	3	3	3	①・具体的な貢献内容(継続して 取り組めること)を児童に指導す る ・挨拶について、全校児童が当事 者意識を持てるように指導する ②・挨拶がよかった学年や児童、 登校班を児童会が評価する
				・不登校児童をつ くらない	①帰りの会等での児童の 自己肯定感を高める取 り組み	○新規不登校児童を0に する	新規不登校児童0 ①・各学級で友達の良い所探しな どを行った	①・教育相談委員会を月一 回開催するなど、学校 全体で対応策を考える	3	4	①・教育相談委員会を月一 回開催するなど、学校 全体で対応策を考える	新規不登校児童1 ①・各学級で友達の良い所探しな どを行った ・教育相談委員会を概ね 月 1回行った	3	3	3
4	自ら、体力づ くりや健康づ くりに取り組 む児童を育て る		継続	・意欲的に体力向上 に取り組む児童	①週1回のローテーション レーニング ②週1回の全校鬼ごっこ ③毎朝のモーニング体操	○新体力テスト 合計判定A・B 6月 85%以上 11月 90%以上	新体力テスト 6月 合計判定A・B 66% ①・ローテーションレ ーニング、鬼ごっこ、モーニング 体操等で体を動かす機会を多く もった	3	2	①～③・継続して実施する ・記録が低い項目(立幅と び、反復横跳び)の改善方 法を考える ・種目のポイントを伝えたり、 測定方法を工夫したりする	新体力テスト 11月 コロナウイルス感染症予防のため 中止 ①・ローテーションレ ーニング、鬼ごっこ、モーニング 体操等で体を動かす機会を多く もった ・記録が低い項目の改善 方法 を考えた	2	3	2	①～③・継続して実施する ・記録が低い項目関係した運動を 体育の学習のしめどに取り入れ る ・種目のポイントを伝えたり、測 定方法を工夫したりする ・児童の遊び道具を増やし、遊 びの紹介を行う ・生健部で話し合ったり決定した りした内容について、職員に周知 し、実践する ・教研と連携して、体育の授業 力の向上に取り組む
				・自分の健康を意 識する児童	①生活リズムチェックと 結果の活用(学期に1 度)	○生活リズムが整っている 児童 児童実態調査 4項目 各全校平均80%以上	生活リズムが整っている児童 早寝7 9%(その他の項目 80%以上) ①元気もりもり週間の結果を 示し、児童に意識をもたせ た	①・保健便りで保護者に周 知する ・早寝を意識できるよ うな取り組みをする	3	3	①・保健便りで保護者に周 知する ・早寝を意識できるよ うな取り組みをする	生活リズムが整っている児童 早寝 8 0%以上 ①元気もりもり週間の結果を 示し、児童に意識をも たせた	3	3	4
6	安全で安心で できる学校を 実現する		継続	・児童・保護者に とって「行きたい」「行かせ たい」学校づくり	①児童に寄り添う指導の徹底 ②保護者への丁寧な対応と連携 ③報告・連絡・相談の徹底	①学校が楽しいと答える児童 児童アンケート85%以上 ②子供を安心して学校に通 わせていると回答する保護者 保護者アンケート90%以上	①アンケート結果 93% ②アンケート結果 99% ・報告・連絡・相談の徹底と 丁寧な保護者連携を行うこと の確認	3	4	①②・児童の話を聴き、見 通しをもてる指導を行 い、納得して帰宅できる ようにする ・報告・連絡・相談を徹 底し、一人で判断しない ようにする	①アンケート結果 95% ②アンケート結果 99% ・保護者連絡の前後の報 ・連・相の徹底を図った ・不祥事防止委員会、児童 への指導について把握し、職 員への提言を行った	3	4	4	①～③の取組を継続し、充実させ ていく ・不祥事防止委員会において、 日常的な児童への指導や保護者 連携について状況を把握し、全 体で改善すべきことを職員に周 知し、確認する
				・教職員が「働 きたい」学校づく り	①職員の相互の連携と、 支え合う組織の構築 ②業務改善による働き方 改革の推進	①日々の仕事で充実感を得ら れていると答える職員 職員アンケート90%以上 ②時間外在校時間45時間未 満を100%	①アンケート結果 95% ②45時間未満 95% ・低中高ブロックや校務分掌 での相談体制や、初任者、今 年度からの本校勤務者への支 援体制を図った	3	3	①相手意識をもち、積極的 な対話を通して、互いを尊重 し合う雰囲気をつくる ②業務改善の推進、在校時間 記録票を10日毎にチェック し、入退校時刻の自己管 理を行う	①アンケート結果 100% ②45時間未満 100%(10～11月) ・衛生委員会と職員の心身の 健康状態を把握し、職員の 意欲向上や職場環境づくりに 向けて提言を行った ・初任者、今年度からの本校 勤務者への支援を図った	3	4	4	①・引き続き、衛生委員会にお いて職員の心身の健康状態を 把握し、職員への提言を行っ ていく ②・業務改善研修を実施し、業 務改善や働きやすい職場づく りを推進する

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。